科学技術と自然と人間

K22103

橋本直人

1.

マンハッタン計画とは第二次世界大戦中に行われた原爆開発・製造を目的としたアメリカの国家軍事プロジェクトである。この背景にはドイツが原爆研究を開始したことによって危機感が高まったことが関係している。開発は急速に進み高濃縮ウランやプルトニウムの生産ののち1945年7月16日に最初の原爆が完成した。1945年8月6日に高濃縮ウランを用いた原爆リトルボーイが広島に、三日後の8月9日にはプルトニウムを用いた原爆ファットマンが長崎に、警告なしで投下された。

2.

警告なしという部分が気になっていてそれを調べると以下のような文献を発見した。

日本側視点ではポツダム宣言の回答を遅らせていたが、アメリカ側では無視・拒否と判断したのだという。「日本にはポツダム宣言を送ってあるので警告なしでの投下ではないだろう」という意見を述べるものもいると考えられるが、この文献を読むとアメリカ側が日本と交渉することなく原爆を落としたという印象を持った。

ここまで、警告がどうであるかについて述べてきたが私の思うところは「原爆以外にも解決策はあったはずだ」ということである。

その他

戦争が技術を発展させるというのは残念なことに今の日本でもそうだと思います。

例えばレールガンの開発などがそれに当たると思います。

[アジア・太平洋戦争と戦後教育改革(12) : ポツダム宣言の受諾 - 山口県大学共同リポジトリ (yamaguchi-u.ac.jp)](https://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/un/550)